

あけましておめでとうございます

コロナ禍の新春、心晴れない2021年のスタートです。里帰りを躊躇う人たち、家族と一緒に過ごせない人たち、思い思いのお正月を過ごされたことでしょうか。今年こそ私たち一人ひとりが本気で気を引き締めて生活すれば、きっとコロナは終息に向かい春には明るい未来が開けることでしょう。皆さん頑張りましょうね。今年もよろしくお祈りします。

年頭に社説を読んで想うこと

【 核・気候・コロナ 】文明への問いの波頭に立つ

長崎原爆資料館の入り口に掲げられた「長崎からのメッセージ」には、核・気候・コロナという「世界規模の問題」を3つ挙げ、それらに立ち向かう時に必要なこと、すなわち①自分が当事者だと自覚すること。②人を思いやること。③結末を想像すること。④そして行動に移すこと。

誰もがウイルスに襲われうることを人々は知った。感染やその拡大という「結末」を想像し、一人ひとりが行動を律する必要も人々は知った。そんな時期に、核や地球温暖化でも、誰もが「当事者」であり、みんなの「行動」が求められていることを訴えたい。そんな思いがこめられている。

パンデミックが世界を覆い尽くす速度は昔日の比ではない。地球環境は「気候危機」に立ち至った。核の恐怖を伝える「終末時計」は昨年、人類滅亡まで「残り100秒」を指し、史上最悪を記録した。いずれも、現代文明が産み落としたグローバルな巨大リスクである。

人類に豊かさをもたらしたはずの文明が、人類に牙をむく。この逆説を、改めて深く銘記せざるを得ない。

コロナ禍という非常時は以前からあった数々の問題を大寫しにした。生態系への野放図な介入しかり。都市への人口密集しかり、である。効率優先の行き着くところ、社会の余力がそぎ落とされ、医療崩壊に繋がった地域がある。「エッセンシャルワーカー」の役割に光が当たったが、テレワークが広がり、デジタル化が加速する見通しの一方で、対面労働に携わる人々との格差が論点となる。

これらの課題にどう答えを出すか。感染の抑え込みに加え、人類社会が課される荷は重い。

問題に立ち向かう根っこは

- ① 自分が当事者だと自覚すること。
- ② 人を思いやること。
- ③ 結末を想像すること。
- ④ 行動に移すこと。

「人類に豊かさをもたらしたはずの文明が、人類に牙をむく。」「われわれの文明の性格そのものが問われているのではないか。」

日頃から思慮深く①～④を、また物事には循環があることを念頭に置いて行動出来れば等と思いますが、人間は愚かな動物で、愚かさを繰り返すのが現状です。「自分さえ良ければ、金さえあれば、今だけ良ければ。」そんな風潮まで蔓延る世の中。世界は広く、地球は丸く繋がっている事をコロナ禍で学んだ。であれば未来の子どもたちの為に、今私たちが出来る事を行動に移すべきではないだろうか。

相対的貧困が広がる日本(世界)。自分が当事者だったら、人を思いやること、結末を想像すること(貧困が増えると国力が落ちる等)、自分が出来る事をしよう。

それは、2015年国際連合サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の17の目標と169のターゲットを学び、少しでも早く実践することです。

【自分が当事者だったら、人を思いやること、結末を想像すること(地球が持続可能ではなくなること)、自分が出来る事をする事。】

当会は昨年9月からSDGsについて学習し始めました。

また、グリーンリカバリー(緑の復興)の機運が生じている。

環境活動家のグレタ・トゥンベリさんをはじめ、様々な領域で若い世代が声を上げていることは心強い。未来社会の当事者たちが、このままで人類は持続可能なのかという問いの波頭に立っている。

2021年は山を動かす挑戦をより一層進める好機である。

(2021年1月1日 朝日新聞朝刊 社説を一部抜粋)

私たちの生き方在り方を変えねばならない。潮目の変化がはっきりしている。

おめでとうの言葉から

おめでとう その言葉にある めでる とは

愛でること 喜ぶこと 祝福すること

ありがとう その意味は 有り難い こと

珍しいこと めったにないこと 感謝したいこと

ことしもまた 健やかに 過ごせる日々を

愛でたい と思う 感謝したい と思う・・・

(朝日新聞の広告より)

